

すべての取り組みは、
牛久の未来を担う
子どもたちのために

教育企画課 ☎ 内線3331

部活動の地域移行に向けて

部活動は、生徒にとって教育的意義の高い活動である一方で、教員の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えません。部活動は、すべてを学校の教員が担うのではなく、生徒への指導等に意欲を有する地域人材の協力のもとで、生徒にとって望ましいスポーツ・文化活動を地域が支えていくことが求められています。

部活動の意義と課題

部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場です。一方、これまで部活動は教員による献身的な勤務のもとで成り立ってきましたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや指導経験のない教員にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じていました。

そこで文部科学省では、生徒にとって望ましい部活動の環境を構築する観点から、部活動ガイドラインを策定し、部活動の適正化を推進しています。他方、学校の働き方改革は喫緊の課題であり、中央教育審議会の答申等において、「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」ことが指摘されています。



具体的な方策

休日の部活動における生徒の指導や大会の引率については、学校の職務として教員が担うのではなく地域の活動として地域人材が担うこととし、地域部活動を推進するための実践研究を実施することが示されました。その成果をもとに、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教員が休日の部活動に従事しないこととされました。

地域部活動の運営主体は、退職教員、地域のスポーツ指導者、スポーツ推進委員、生徒の保護者等の参画や協力を得て、民間のスポーツクラブ、市民団体等が担うことが考えられます。併せて、大会等の参加資格については、学校以外の団体も参加できるよう弾力的な取り扱いの検討を要請しています。

牛久市では、令和4年11月から国の進める令和4年度地域運動部活動推進事業（休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究）を茨城県

から再委託を受ける形で進めています。これは、市内中学校の一部の運動部活動の休日における活動について、顧問教員が携わらず外部委託による指導者が直接指導を行うものです。参加者に費用を負担してもらい、学校部活動とは違う「地域でのスポーツ活動」として行っています。令和5年4月以降この動きを拡充できるよう、指導者の確保、活動場所の確保などについて検討を進めているところです。

地域移行は第一歩

現在、令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けては、運営団体や指導者の確保、平日と休日の協力体制など、様々な課題を抱えています。こうした課題の解決に向け、運営団体となる民間のスポーツクラブ等に協力を要請するとともに、各ク

ラブが地域のスポーツ指導者や退職教員等を指導者として確保できるよう支援するなど、段階的に地域で部活動に取り組める体制の構築を推進し、休日の地域部活動や合理的で効率的な部活動を目指します。

地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましい部活動の実現や、学校の働き方改革を通じた学校教育の質の向上を図るため、さらなる取り組みを進めることが関係者の責務であり、休日の部活動の段階的な地域移行は、そのための第一歩です。

今後もし引き続き、生徒、保護者および地域の方々の理解を得ながら、部活動改革を着実に進めていきます。

